【ねがいましては】

平成２９年３月２３日　　*KYOWA SCHOOL*
第３１７号

「淡々と」

今年、初の国立大学合格者が出ました。と同時に、その合格という成果とは別に、それまでの彼女の淡々と取り組む姿を他の高校生たちも少なからず見ていたせいか、俄然、彼らの向かい方にも変化が出てきました。
「自分歩き」という旗を掲げ歩んできたことが、今の私にとって「これでよかった」と、自信という実りをつけてきたのかなと感じています。

Ｍちゃんは、小学校６年時にやってきました。もともと語彙力に優れていたため、中学校初期から力を発揮しました。５人兄妹の末っ子だったせいか、お姉さんお兄さんが置いていった、数多くの本と触れ合う時間が多かったそうです。それが語彙力をつける大きな要因になったと思います。１冊でもお気に入りの本が見つかれば、何回も読み直したくなるものです。さらにその魅力を味わいたいため、分からない語彙や不安な語彙が表れると辞書を引かずにいられなくなる。そんな習慣が彼女の学力の土台を作っていたようです。ですから、教科書なども一度読めばかなりの割合で習得できてしまうといった具合です。知らないうちに身についていたものは語彙力だけではありません。向かう姿勢にも、ある種の形が作られます。他人と争うような勉強からはほど遠いスタンスを手に入れています。例えば、社会のテストが近づくと、先生の出題する問題を隅々まで予想し取り組みます。何としても１００点を狙う・・・。時事問題などがそれにあたりました。私もずいぶん聞かれました。「時事問、どんなのが出ると思いますか。」

今を精一杯に生ききること。しかも周りを意識せず、淡々と向かう。その積み重ねが、結果はどうであれ自分の人生への力となっていきます。たとえそれが失敗や敗北であったとしても、その取り組みの過程が人を実りへと導いていくものと思っています。まさにＭちゃんは、自然に「今を精一杯」を手にしていたのだと思います。

淡々と我が道を我がスピードで歩む。何と堂々とした姿なのでしょう。まだまだ学ぶことの多い若い方々にとっては、不安だらけの毎日であると思います。その中にあって、一本の道を唯ひたすらに歩む、目的がある・・・。それは合格という目的よりも、その先、どのような道で社会への貢献を果たすかという目的です。先のＭちゃんは、デザイナーになりたいのだそうです。（大学は工学部）それでご飯を食べられるかということよりも、何かを成し遂げてみたいという自らの夢の表れだと思います。

小学校の時代から、人と比べられながら過ごしてきた子どもたちは、勉強を競うものとして捉え始めます。当然、その評価に敏感になっているお母さんやお父さん、ご兄弟などの影響を受け、ただ「点数」だけの世界をさまようことになります。下がった、上がった・・・。自分が上がれば、誰かが下がる。当たり前のことなのですが、自分さえ良ければそれで良いという利己主義を正当化するような制度です。他人が順位を下げるのを楽しみにしてしまうような感情が芽生えてもおかしくありません。Ｍちゃんは、高校生活途中からは、順位をまったく知ろうとはしなかったと言います。彼女の高校では、職員室へ聞きに行けば教えてくれるシステムだそうです。

高校受験にしても、初めから安全合格を考え、目標を低くし受験する子もいれば、自身の目標がしっかりあるからこそ、チャレンジする子もいます。結果、落ちたとしても、前者、後者、どちらのお子さんが人らしく生きようとしていたか・・・。その時を精一杯に生きようとしたか・・・。

今を淡々と生きようとする姿勢こそ、今の子どもたちが必要としているものかもしれません。それを奪おうとしているもの・・・。

私はこれからも「自分歩き」を掲げ、子どもたちが前へ前へと歩もうとする姿を、目を細めながら見つめていきたいと思います。

まず、自分で自分の歩む道を考えてみよう。それには社会が、身の回りがどのように動いているのか、知る必要があると思います。それが「旅」（いろいろな意味で）かもしれません。学校と家だけの往復になりがちな、今の子どもたちの生活環境・・・。であるなら、「旅」の先々で出会う「人」や「できごと」、その道の端々にぶつかりながら転びながら、何が原因で転んだのだろう。何が原因で歩めないのだろうと考える機会を多く持ってください。きっとどう生きるべきなのかと、深く考えるときが現れると思います。

小さいお子さんの時代には、そのようなことを考えることは難しいでしょう。その時にかけてあげる言葉には責任があります。「がんばってるね」それだけで十分だと思います。この「がんばってるね」を強く推奨する先生がいらっしゃいます。愛知教育大学名誉教授　中野靖彦教授です。「がんばったね」という過去形ではなく、今まさに頑張っているその過程に評価を与えています。今、まさに「がんばってるね」。

テストが最悪で、順位が大幅に下がっても、それを糧にして必死に向かおうとしているならば、その瞬間が「がんばってるね」の瞬間です。成績というものはそう簡単に上がるものではありません。少なくとも半年単位の長い目で捉える必要があると思います。さあ、今日から褒めてあげてください。「がんばってるね」しかも淡々と・・・。